

「幻の村」山谷村の来歴 秦野 秀明

「山谷村」の起立は不明

寛永十五年(1641)十一月三日以前、小野久内吉次、^{よしつぐ}「はじめ武蔵国多摩郡落合村に居住し、東照宮に謁見す。後台徳院殿の御時めされて廩米を賜ひ、御鷹匠頭となる」『寛政重修諸家譜』第千三百六十九⁽¹⁾

寛永十五年(1641)十一月三日、小野久内吉次、^{よしつぐ}「百俵加恩たまひ」、小野左門吉次(吉次^{よしつぐ}の長子)、^{よしつぐ}「はじめて廩米五十俵給ふ」『大猷院殿御実紀』巻?⁽²⁾

寛永十八年(1641)二月十四日、小野久内吉次、^{よしつぐ}采地300石を与えられる。『大猷院殿御実紀』巻四十六、『寛政重修諸家譜』

武蔵国多摩郡落合村		100石	『武蔵田園簿』
同国新座郡片山村(分村後の野寺村)	1232石の内	50石	『同上』
同国埼玉郡山谷村	132石3斗0升3合の内	100石	『同上』から佐藤久夫の推定
	合計	300石 ⁽³⁾	

正保三年(1646)十二月四日、小野久内吉次、^{よしつぐ}采地100石を加えられる。『大猷院殿御実紀』巻六十五

武蔵国多摩郡落合村		100石	『武蔵田園簿』
同国新座郡片山村(分村後の野寺村)	1232石の内	50石	『同上』
同国埼玉郡山谷村	32石3斗0升3合追加	132石3斗0升3合	『同上』から佐藤久夫の推定
同国 同郡東方村太兵衛分	392石7斗9升4合の内	67石6斗9升7合	『同上』から佐藤久夫の推定
	合計	400石 ⁽⁴⁾	

正保四年亥年六月(1647)「山谷村年貢割付」(東方中村家蔵)

小野久内の「印」⁽⁵⁾

慶安二年(1649)、三年(1650)、『武蔵田園簿(正保田園簿)』

小野久内知行、高百三拾貳石三斗三合、内 田方 八拾八石貳斗壹合、畑方 四拾四石壹斗貳合⁽⁶⁾

慶安三年(1650)正月二十四日、小野久内吉次、^{よしつぐ}没。法名 全休。『大猷院殿御実紀』⁽⁷⁾

慶安三年(1650)二月三日、小野左門(吉兵衛)次隆(吉次^{よしつぐ}の長子)、^{つぐたか}「鷹匠頭」となる。「遺跡」を継ぐ。『寛政重修諸家譜』⁽⁸⁾

慶安五年(1652)よりかなり後、『正保国絵図』

「山谷村」として記載

元禄四年(1691)十二月八日、小野左門(吉兵衛)次隆(吉次^{よしつぐ}の長子)、^{つぐたか}没。法名 宗性。『寛政重修諸家譜』⁽⁹⁾

元禄五年(1692)六月二日、小野次顯(次隆^{つぐたか}の子)、^{つぐあき}「鷹匠頭」となる。『?』⁽¹⁰⁾

元禄五年(1692)七月二十二日、小野次顯(次隆^{つぐたか}の子)、^{つぐあき}「遺跡」を継ぐ。『?』⁽¹¹⁾

元禄六年(1693)三月二十九日、小野次顯(次隆^{つぐたか}の子)、^{つぐあき}没。法名 全昌。『?』⁽¹²⁾

元禄六年(1693)七月十二日、小野次興(次隆^{つぐたか}の子、次顯^{つぐあき}の弟)、^{つぐあき}「遺跡」を継ぐ。後に「小普請」となる。『?』⁽¹³⁾

元禄八年(1695)十一月十八日、「庚申塔」造立⁽¹⁴⁾

元禄十一年(1698)二月、小野次興(次隆^{つぐたか}の子、次顯^{つぐあき}の弟)、埼玉郡の采地を下総国香取郡の内に移される。『寛政重修諸家譜』⁽¹⁵⁾

元禄十六年(1703)頃、『元禄国絵図』
「大相模東方村ノ内山谷村」として記載

文政十三年(1830)、『新編武蔵風土記稿』
「山谷村元禄国図には、東方村の内山谷村と書し、別に載せたれど、
今は全く小名にて、別に一區をなせしものにはあらず」⁽¹⁶⁾

天保年間(1831~1845)、『天保国絵図』
「山谷村」の記載なし

明治十五年(1882)、『武蔵国郡村誌』
東方村「字地 山谷 村の西南隅にあり東西一町十五間、南北六町二十八間」⁽¹⁷⁾

明治22年(1889)年四月一日
「町村制」施行に伴い、柿ノ木村・南青柳村・伊原村・麦塚村が合併し、南埼玉郡川柳村が成立する。⁽¹⁸⁾

昭和25年(1950)年
南埼玉郡大相模村東方の一部である山谷を編入し、南埼玉郡川柳村上谷(うわや)とする。⁽¹⁹⁾

昭和30年(1955)8月1日
北足立郡草加町と合併する。⁽²⁰⁾

昭和30年(1955)11月3日
旧川柳村のうち伊原・上谷・麦塚が草加町から分離し、南埼玉郡越谷町に編入される。⁽²¹⁾

注

- (1) 佐藤 久夫(1993)『日光道中 江戸近郊の宿駅と文化』竹頭社 490
- (2) 佐藤(1993)前掲書 491
- (3) 佐藤(1993)前掲書 490, 496
- (4) 佐藤(1993)前掲書 496, 497
- (5) 越谷市史編さん委員会編(1973)『越谷市史 第三巻 史料一』越谷市役所 234, 235
- (6) 北島 正元校訂(1977)『武蔵田園簿 (日本史料選書) 15』近藤出版社 148
- (7) 佐藤(1993)前掲書 496, 497
- (8) 佐藤(1993)前掲書 497
- (9) 佐藤(1993)前掲書 498
- (10) 佐藤(1993)前掲書 498
- (11) 佐藤(1993)前掲書 498
- (12) 佐藤(1993)前掲書 498
- (13) 佐藤(1993)前掲書 498
- (14) 加藤 幸一(2013)『改訂版・川柳地区(伊原・上谷・麦塚)石仏』加藤 幸一(自家製)5, 17
- (15) 佐藤(1993)前掲書 498, 499
- (16) 『新編武蔵風土記稿』卷之二百五 埼玉郡之七 八條領
(復刻版 蘆田伊人編(1963)『新編武蔵風土記稿』第十卷 雄山閣 173)
- (17) 埼玉県編(1954)『武蔵国郡村誌 第十一巻』埼玉県立図書館 85
- (18) 「角川日本地名大辞典」編纂委員会・竹内理三編(1980)『角川日本地名大辞典 11 埼玉』角川書店 299
- (19) (18)前掲書
「五万分一地形図東京一号「野田」、大日本帝国陸地測量部、昭和六年九月三十日発行」
には、「上谷」の字名が、既に記載されていることから、今後の調査、研究が待たれる。
- (20) (18)前掲書 299
- (21) (18)前掲書 299